

JICE

ISSN 1347-4502
2020 第36号

REPORT OF JAPAN INSTITUTE OF COUNTRY-LOGY AND ENGINEERING

REPORT

特集

気候変動を踏まえた 社会資本整備のあり方

REPORT OF JAPAN INSTITUTE OF COUNTRY-LOGY AND ENGINEERING



【表紙写真の解説】

表紙は、高潮を防いでいる大阪府の木津川水門の様子である。

室戸台風（1934年）やジェーン台風（1950年）および第2室戸台風（1961年）等で多大な被害を受けた大阪府では、1965年に当時最大規模で国内に上陸した伊勢湾台風（1959年）の規模を想定した「大阪高潮対策恒久計画」が策定され、木津川水門、安治川水門、尻無川水門の3大水門をはじめとする防潮水門が整備された。

関西国際空港などに多大な被害をもたらした、2018年の台風21号において、大阪湾ではこれまでの第2室戸台風（1961年）来襲時の最高潮位を超過したが、水門によって大阪市内側への高潮の侵入を防いだ。

第2室戸台風では約13万戸が浸水したが、その後の海岸・河川堤防、水門の整備や適切な維持管理（計約1,500億円）により、市街地への高潮浸水を完全に防止した。被害防止の効果は約17兆円と推定されている。

（写真提供：大阪府）

【社会資本整備の効果および近年の被災】

温暖化による降雨への影響が生じてきている。

現在、国民の生命と財産を確保するための社会資本整備は重要であり、その整備による効果が現れている。しかし依然として降雨による被害が発生しており、それら被害を最小限にし、我が国の発展を支える社会資本整備の重要性はますます高まっている。



2019年台風19号による首都圏への洪水被害軽減に貢献した渡良瀬遊水地
（写真出典：国土交通省関東地方整備局利根川上流河川事務所HP）



2018年西日本豪雨時の国道2号 広島県安芸郡坂町
（国土交通省中国地方整備局 提供）



2018年西日本豪雨による広島県呉市安浦町市原の土砂災害
（国土交通省中国地方整備局 提供）



2019年台風19号による長野県千曲川の堤防決壊
（写真出典：国土交通省北陸地方整備局HP）



MSA-QS-66

JIS Q 9001-2008 (ISO 9001 : 2008)
認証取得 1998/6/17 更新 2013/5/29



MS JAB
CM024

JICE 一般財団法人
国土技術研究センター
Japan Institute of Country-ology and Engineering



GREEN PRINTING JPN
P-010012



VEGETABLE
OIL INK



R80
古紙バブル配合率80%再生紙を使用